

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	薬剤師緩和医療実践コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	がん医療に携わる薬剤師 等						
修業年限（期間）	1か月以上2か月まで						
養成すべき人材像	緩和ケアに関する総合的な知識を有し、疼痛マネジメントなどを含む緩和薬物療法に特化した知識と実践能力を有する薬剤師						
修了要件・履修方法	本教育プログラムを全て受講し、レポートを提出すること						
履修科目等	講義：「緩和医療学総論」「緩和医療に携わる薬剤師に必要な基本的姿勢」「緩和医療に関する知識と実践能力（1.疼痛マネジメント2.消化器症状マネジメント3.呼吸器症状マネジメント4.精神症状マネジメント）」「緩和医療に必要な対人およびチーム医療での実践能力」の講義 実習：①緩和ケアチームに参加し、症例を担当し、アプローチの実際を経験する。②緩和ケアセンターカンファレンスにてプレゼンテーションを行い、包括的アセスメントを学ぶ。③緩和ケア病棟や在宅緩和ケアを経験し、地域連携について学ぶ。④症例検討などディスカッションを遠し、緩和ケアチームの各職種の役割を学び、連携を深める。						
がんに関する専門資格との連携	日本緩和医療薬学会 緩和医療専門薬剤師研修施設						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	緩和医療の普及・啓発は徐々に進んでいるものの、薬剤師が緩和ケアを専門的に学ぶことができる場合は少なく、社会のニーズに応えられるだけの緩和薬物療法認定薬剤師の育成も進んでいない。本コースでは、多職種の専門家による包括的なクルーズの受講と実習により、緩和薬物療法認定薬剤師の取得を目指す薬剤師として必要な知識、技能や態度の習得が可能である。						
指導体制	慶應義塾大学病院および連携する緩和ケア病棟等の緩和医療専門医、緩和薬物療法認定薬剤師、専門・認定看護師等が直接指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	緩和ケアを必要としている患者や家族に緩和ケアを専門とするチームの一員として早期に関わり、様々な苦痛を取り除くことに積極的に貢献できる緩和医療領域に精通した薬剤師を育成する						
受入開始時期	随時						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	4	4	4	4	4	4	24
受入目標人数設定の考え方・根拠	2022年の緩和薬物療法認定薬剤師の新規申請者は約90名、東京都の新規合格者は6名で、合格率を考慮すると東京都の申請者は8名程度である。新規申請者の1/2程度の受入れを考え、4名/年と設定した。						